

## 実践報告

## 札幌市立北都小学校

### (1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタン」を活用した学習の研究

- 命あるものや自然を大切にするアイヌ文化について、体験的な活動を通して学ぶとともに、自分自身や友達に対し大切に關わろうとする意識を高め、社会的な差別や偏見なく生きる人間性を育む。

### (2) 実践の内容

【実践】「サッポロピリカコタン」体験プログラム事業について

#### ○ ねらい

アイヌの人たちが自然を大切にして生活していたことを施設見学と体験プログラムを通して学ぶ。

#### ○ 学習内容

4年社会科「昔から今へと続くまちづくり」の学習と関連させ、アイヌ民族の生活や歴史、芸術について施設見学及び体験プログラムへの参加を通して理解を深める。



アイヌ語であいさつ、「イランカラプテ」。



アイヌ語楽器の紹介と演奏

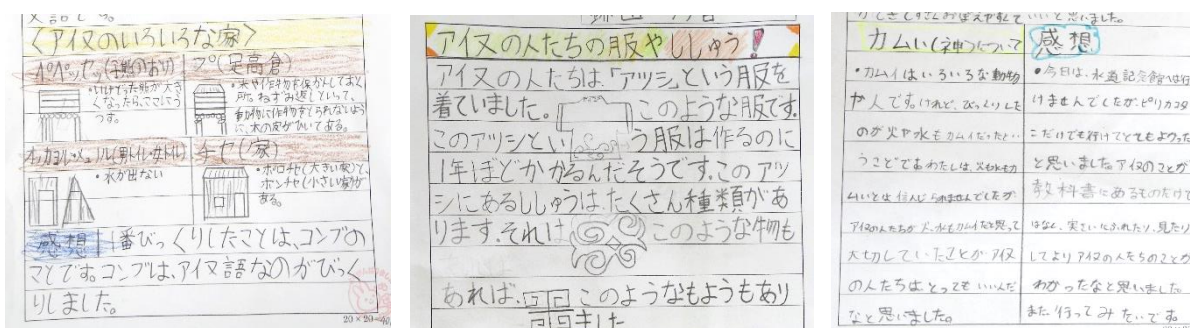


アイヌ舞踊や切り絵の体験

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・ サッポロピリカコタンでは、アイヌの方々（アイヌアートプロジェクトの皆様）を講師に体験プログラムを進めていただいたことで、体験だけで終わるのではなく、アイヌの民族の方々との交流の場ともなり、差別や偏見なく生きる人間性を育む上で効果的な場となった。特に今回は、「地球上にあるもの全てをカムイ（神様）と捉え大切にしている」というアイヌ民族の考えや思いを直に聞くことができたことは、収穫であった。
- ・ 体験プログラムや施設見学により、アイヌ文化について実際に見たり聞いたりやってみたりできたことは、児童にとって教室での学習では得がたい、実感の伴った理解につながった。



事後のカード（まとめ）から

#### ② 課題

- ・ 「サッポロピリカコタン」の体験プログラム、施設内外の展示物は充実しており、限られた時間内で何を行うのかを、ねらいと児童の実態・人数を鑑みて施設側と調整していく必要がある。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 社会的な差別や偏見なく生きる人間性を育むためには、まずは相手のことを知ること、理解することから始まると考える。今回、「サッポロピリカコタン」を訪問し、講師のアイヌの方々から直にお話を聞くことができたことは、児童にとって非常に意味ある場であった。人権教育に関わっては、本校ではほかにも総合的な学習の時間や外国語活動において、異文化交流・異文化理解のための場を設けている。一つ一つの取組が単体で終わることなく、それぞれの学校の教育活動全体で進めていくことが大切である。